



子どもを巻き込んだ事故のニュースを耳にします。慌ただしい時期を迎えます。交通事故に巻き込まれないように、そして事故につながるようないたずらや悪ふざけがないように注意しています。

自分達の生活を 自分達でよくする

「あいさつ・そうじ・ボランティア」の取り組みのおかげで、子ども達の生活ぶりがよくなってきたと感じます。外では遠くからあいさつをしてくれる子がいます。掃除も丁寧になりました。そんな丁寧さを高学年がリードしたことも、高学年が高学年らしくなったという意味でうれしいことです。

ろう下歩行の取り組み ～児童会執行部～

募金が終わったあと、今度は執行部で「ろう下歩行」の取り組みが行われています。

「①右側歩行、②静かに、③はしっていないか」が重点で、よい人を紹介しようというものです。よい人には、**児童会キャラクター「つぶ豆」**のシール(手作り)が配られます。



縦割りの仲を深める会 ～6年生～

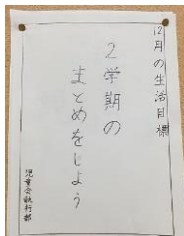
楽しい取り組みも行われています。コロナの影響もあって、縦割り班の仲を深める取り組みとして行われていた「種小フェス」が行われなままです。そこに、6年生から「**なにかできないか**」と「縦割りの仲を深める会」のお知らせが届き、12月13日(月)の昼休み時間に行われました。



「クイズ」、「新聞から落ちるなゲーム」、「風船ゲーム」など6か所のゲーム会場があって、みんなが遊べるように6年生が遊ばせる役をしてくれました。班は次から次へと場所を移って遊んでいきました。

「**どんなことをしたらみんなが楽しく暮らせるだろう**」、「**生活のどんな点を直していったらよいだろう**」そんな、「みんなの生活をよりよくするための取り組み」が、2学期の終わりが見えてきたギリギリまで行われています。『自分達の生活を自分達でよくする』という意識が広まってほしいと思っています。

2学期最終週になりました。



各学級・学年でそれぞれに、「2学期のまとめ」が行われています。

がんばったことが見つかるたびに「ビー玉」を集めてきた2年生は、まとめの「ビー玉パーティー」の話し合い



“そうじのまとめ”の「期末清掃」で細かいところのごみをとる1年生



自分達で行く修学旅行

～実現した班別見学～

延期されていた修学旅行が12月2日・3日に行われました。行き先は北海道函館市。このところ悪天候が続いていてその影響が心配されていましたが、到着して班別見学に出発するころには、雪が小降りに。「〇班、〇〇に着きました。」「△班、時間が早いで、変更して◇◇へ向かいます。」班に1個渡した携帯電話から先生方の携帯電話に次々に入ってくる電話の声は大変元気。班別見学も順調に進んでいます。先生方は、この班別見学を是非やらせたいと考えてました。「自分達で行く修学旅行」をしてほしかったのです。また、夜には、前日は強風でロープウェイが止まって見られなかったという夜景も見ることができました。

次の日、バスに乗り込むときは雨でした。ホテルに横づけしていただいたバスに急いで乗り込みましたが、「金森倉庫」で買い物や昼食を終えたころには青空が見え始めました。この子達は昨年度、宿泊学習なのに宿泊できなかった子ども達です。それを思うと、今回は予定をすべて行うことができ、本当によかったと思っています。

朝市で大きなカニを持たせていただきました。



夕食会場で1日目の反省会



2日目の朝。雨に濡れないようにと、運転手さんやガイドさんが傘をもって立ってくださいました。こういう方々のおかげもあって楽しい修学旅行ができました。

「実は『何もしてあげない』修学旅行をめざしているのです！」

結団式、出発式、感想、あいさつ、…。子ども達には一人での出番がたくさんありました。はじめはうまくできなかったところもありましたが、旅行の中で徐々に自分の言葉で話す姿が見られるようになっていきました。修学旅行は、これまでの「まとめ」でもありますが、“現在進行形”で力を伸ばしている場面でもあるのだと思いました。

さらに、菊池先生は、ほとんど指示をしないことに徹しておられるよう。実行委員は頭を寄せ合ってしおりを見ながら次の指示を出しています。そう言えば添乗員さんとの打ち合わせでも、「添乗員さんからもあまり指示を出さないでいただくように」とお願いしました。

今年度の大きな目標は「**自分達で考え行動する**」でした。添乗員さんには、「**私たちは、言ってみれば『何もしてあげない修学旅行』をめざしているのです。**」とお願いしたのでした。

こうして、子ども達は、多少の失敗をしながらも、自分一人でやる力も伸ばしながら、自分達で旅行をやり切ったのでした。

「一人でやる強さ」

人前で話すときは緊張します。たとえ何を話すか決まっているときでさえも、緊張したり照れ隠しのためだったりして、「ねえねえ、何話すんだっけ？」とか「〇〇って言えばいいんだよね。」などと隣の友達に話しかけてしまいがちです。

ですから、子ども達には、「一人でやる強さ」も必要と考えます。やさしい友だちに囲まれて助け合うことも必要ですが、一人一人が役目をやり切ることも必要です。修学旅行で用意された子ども達の出番はその力を鍛える意味があったのだなと気がつきました。

「一人でやる強さ」は6年生だけでなく、今、どの子ども達につけていきたい力の1つではないかと思っています。

みなさんは、どんな6年生を“完成”させますか ～解団式で6年生に～

みなさんは、自分達で旅行をやり切りました。そんなみなさんの姿を見て、「6年生になってきたなあ」と思いました。「6年生」というのは、学年・年齢ではなく、みなさん一人一人の中身のことなのです。6年生に進級した日に急に6年生になるのではないのです。運動会をがんばり、学習発表会を仕上げました。先日は、掃除でよい手本を見せてまじめにやる雰囲気为学校につくってくれたという話もしました。あれも、よい「6年生の姿」だと思います。

さて、修学旅行が終わった今、みなさんはどんな6年生になりたいですか。どんな6年生をめざし、そこに今、どれだけ近づけたのでしょうか。自分達がめざすものにたどり着いたとき、そのときこそ、「**中身も6年生になったよ。**」と言えることでしょうか。「**自分達がめざす、6年生という姿・形が“完成”しました。**」と言えるでしょう。そのときが、卒業の時なのでしょうね。

みなさんは、どんな「6年生」を完成させますか。